

「LIFEに関する取り組みに関して」

特養係 堀 翔弥

キーワード：L I F E、自立支援促進と科学的介護推進の評価改善の取組

1. はじめに

2021年4月より、介護業界において「LIFE」の取組が開始いたしました。

介護現場での実際の介護内容などを提出することで、それらをビッグデータとして蓄積・分析・評価しそれを各施設にフィードバックすることで介護の平準化と共有化を進めるものです。

LIFEは10年後、20年後の介護の未来を支える根幹となるシステムと国が位置づけており、そういった国・厚労省の方向性を踏まえ、当ホームではLIFEに取り組んでおります。

2. 目的

LIFEを活用することにより、より当施設における介護が質が高くなり地域の皆様に貢献すること、また施設で働いている職員がLIFEの活用に関して能動的に働きかけることでより高い効果を得ることを目的としております。

3. 方法

日中の過ごし方に関して・・・園芸や家庭菜園などの取組

食事に関して・・・気付きに関してLIFEの活用、根拠があるから工夫が進む

(高さ調整、オーバーテーブルの設置、姿勢保持の工夫など)

4. 結果

園芸・・・自立支援促進に関する評価、科学的介護推進に係る評価において改善が見られた

(入居者の笑顔が増えた、入居者の自立した動きが増えた、DBD-13の評価項目の改善)

食事・・・自立した食事をできるようになり、自立支援促進に関する評価に改善が見られた

(その他、独語及び介護抵抗の減少など、DBD-13の評価改善が見られた)

5. 考察

園芸にしても食事の改善にしても、新しい取り組みではないが、LIFEを活用しながら取り組むことにより、何が改善した、何か工夫すればできる、などの具体的な指標となったり、多職種が情報の共有をすることにおいて、活用することができた。

6. 残された課題

走り始めたばかりのシステムなので、まだまだフィードバックの内容や提出方法そのものでのエラーなどの諸問題はあります。また、提出する・フィードバックを受け取るなど、それ自体に労力や工夫が必要となります。